

大自然に捧げる歌

いろは革命歌完成記念

石多エドワードチャリティコンサート



自然農法で知られる無の哲学者、
福岡正信氏を偲んで

全国巡演スター人



とき 2012年

11月18日(日) 14時～

(12時～ランチタイムですので、お弁当を各自ご持参ください)

ところ 福岡自然農園内八角堂

入場料 無料

ワインやビール、お菓子や果物、お米やパンなどの差し入れは大歓迎します!

出演 石多エドワード うたいおどれやーず オペラブラザ愛媛

協力 福岡自然農園 東京オペラ協会 www.tokyo-opera.gr.jp

連絡先 オペラブラザ愛媛 080-3164-1148 ehime@tokyo-opera.gr.jp



2008年5月9日撮影

私が愛媛を訪れるようになったきっかけは、福岡正信さんがいらっしゃる、ということだけだったのですが、いろいろお話ししていくうちに親しくさせていただくようになりました。

日中合作歌劇「蓬萊の国」、オリジナルミュージカル「The Land of Happiness」、今年5月に生まれたばかりの歌劇「天空の町—別子銅山と伊庭貞剛—」には彼の詩による曲が重要な歌として入っています。

今回最後に歌われる「徐福の歌」は、彼が日中合作歌劇「蓬萊の国」のために書き下ろされたものです。私の中に今も生きている正信さんに捧げたいと思います。

石多エドワード

福岡正信作詩・石多エドワード作曲

- ・いろは革命歌
- ・ワンガラナイ（ソマリア賛歌）
- ・伊予狂い歌
- ・蓬萊の国（徐福の歌）
- ・伊予市音頭【未発表】
- ・百姓音頭【未発表】

石多エドワード作詩作曲

- ・正信ちゃんに捧げるラブソング
- ・タンポポ
- ・あの雲の上なら
- ・ダンザンパン
- ・風が飛ぶ朝
- ・子どもたち
- ・星たちの歌
- ・この世界に
- ・木を切らないで
- ・こんなに空が
- ・旅の終わりに

右の2つの写真の左側：

オリジナルオペラ「忘れられた少年」をローマ法王に奉納する際、福岡正信さんの依頼を受け、英訳版『わら一本の革命』を手渡す。

【いろは革命歌】原詩：福岡正信

い、の一番に捨てりゃよい あなたが抱く宝物
お金に、財産に、権力か？
ホニャララホニャラ、ホニャホニャホニャラ、
ホニャララー、だがのう。
何もいらない、お天道任せ、ホイ！

ろ、んより証拠生き物は 文句も言わず元気よく
人より見事に生きている——
ホニャララホニャラ、ホニャホニャホニャラ、
ホニャララー、だから。
何もいらない、お天道任せ、ホイ！

し、然が神と知ったなら 自然に抱かれ生かされて
すべてを忘れ歌いましょう
ララララララ、ララララララ、
ララララー やっぱり
何もいらない、お天道任せ 何もいらない、お天道任せ



二人でいるいる語りあった自然農園の山小屋

福岡正信 プロフィール

- 1913年 2月2日、愛媛県伊予郡南山崎村（現伊予市）に生まれる。
- 1931年 松山中学卒業。
- 1933年 岐阜高農農学科（現岐阜大学応用生物科学部）卒業。
- 1934年 横浜税関植物検査課に勤務。
- 1937年 一時帰農。自然農法を始める。
- 1939年 高知県農業試験場（現・高知県農業技術センター）に勤務。
- 1947年 再び帰農。自然農法一筋に研究を開始。
- 1975年 「自然農法・わら一本の革命」を出版。
- 1988年 マグサイサイ賞「市民による公共奉仕」部門賞、インド・デーシコッタム賞など受賞。
- 1997年 第1回アース・カウンシル賞受賞。
- 2008年 8月16日死去。

福岡正信 著書

- 『無（神の革命）』 『百姓夜話・「付」自然農法』 『無2 緑の哲学』
- 『無3 自然農法（と理論と実際 緑の哲学 実践編）』 『無1 神の革命』
- 『無 別冊 緑の哲学 農業革命論』 『わら一本の革命』
- 『自然農法・わら一本の革命』 『自然に還る』 『神と自然と人の革命』
- 『神と自然と人』 『無』 『無I 神の革命』 『無II 無の哲学』
- 『無III 自然農法』 『自然農法 緑の哲学の理論と実践』
- 『粘土団子の旅 わら一本の革命 総括編』 『「自然」を生きる』
- 『自然農法?福岡正信の世界（DVDブック）』
- 『いろは革命歌 Iroha Revolutionary Verses』 他

ウィキペディアより

石多エドワード

- 1947年 9月21日、大阪市に生まれる。父はフィリピンで出生した日本人、母はスペイン系フィリピン人。
- 1965年 3月、大阪府立高津高校卒業。在学中、体操部部長、自治会会長。社会を良くしようと政治活動に入りかけるが挫折。世界を変えるにはまず自らを鍛え直そうと決意し、世界の古典文学、古典美術、古典音楽を吸収することに全力をかける。取り敢えず哲学者になることを志望していたが、ベートーベンの後期弦楽四重奏に魅せられ作曲家になるべく音大を目指す。
- 1966年 4月、武蔵野音楽大学声楽科に入り、歌と作曲の勉強を同時に始める。しかし、入学後、当時の音楽界の実態に違和感を感じ、新しい音楽活動を模索し始める。在学中、作曲を平井康三郎他に師事。
- 1970年 武蔵野音楽大学声楽科卒業。日本フーガー・ヴォルフ協会の同人としてドイツ歌曲を中心とした演奏活動を始めるが更なる社会性を求め、オペラ界で活動始める。
- 1976年 「東京オペラ協会」の前身となる「グループ潮」第1回公演開催。以降、現在まで東京オペラ協会代表・芸術監督として創作活動のかたわら、自己のソロリサイタルを全国で40回開催。またモーツァルトを中心としたオペラの数々の主役を務める。
- 1979年～1999年 帝京大学にて、非常勤講師として「現代芸術論」「音楽」「教育実技」等を教える。
- 2000年～東京オペラ協会の姉妹団体として生まれた、オペラプラザ長崎、オペラプラザ福岡、オペラプラザ愛媛、オペラプラザ岡山、オペラプラザ信州の芸術監督も務める。世界平和のため「オペラで国際交流を」と考え、日本から世界に向けて発信するオペラを創作・世界各国で公演。

NPO 法人東京オペラ協会について

1. オペラによる国際交流

- ・オペラ「忘れられた少年」は、ポルトガル、スペイン、イタリア、パチカン、ドイツなどで30回以上巡演を重ね、各国のソリスト、オーケストラ、合唱団と共演。日本でも100回以上、合計130回以上に及び世界各地で巡演。
- ・日中合作歌劇「蓬萊国—始皇帝と徐福」（呂遠作曲、遊仙三郎台本、石多エドワード補作曲）を中国歌劇舞劇院との共演により日中共演で34回巡演。
- ・日比合作オペラ「高山右近—剣か愛か」（マヌエル・マランバ作曲、加賀乙彦原作、永遠尊二郎台本、石多エドワード補作曲）を日比各地で17回巡演。
- ・日西合作オペラ「ザビエル」（イニゴ・カサリ作曲、加賀乙彦と石多エドワードの共作台本）を東京と長崎で巡演。

2. ユニバーサルデザインオペラ

オペラの内容が現代に即したもので、一般のお客様に喜んでいただけるよう歌唱力と演技力を高めて明快な日本語で歌い、出来るだけ安い料金で観ていただけるよう創意工夫を重ね、障がい者も含めあらゆる人が一緒に舞台に参加でき、また観賞もしていただけるよう、当会30年余りの歴史の中でその方法を確立してまいりました。人間の創造力と想像力をフルに使って、すべての人々とともにオペラを創って行きます。

東京オペラ協会・オペラプラザグループ 公演予定

歌劇「天空の町—別子銅山と伊庭貞剛— ■2012年11月16日（金）東京 国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟

■2013年1月14日（月・祝）福岡市中央市民センター ■2月16日（土）東京 サンパール荒川 大ホール 他、滋賀・山口・長崎などで全国公演企画